深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **音便や文の調子に注意して、音読してみよう。**

【答】（略）

▼ポイント▲　特に促音便の「つ」の表記が大きいままなので注意する。（※「学習活動のポイント」参照）

言葉と表現の解答例

1 **次の各部分から敬語を指摘し、敬語の種類と品詞について調べてみよう。**

(1) **のたまひけれども（八八・3）**
(2) **申しけるは（八九・2）**
(3) **おぼしめし候べき（八九・4）**
(4) **討たれさせ給ひなば（九〇・3〜4）**

【答】(1)のたまひ　尊敬語、動詞（ハ行四段活用）
(2)申す　謙譲語、動詞（サ行四段活用）
(3)おぼしめし　尊敬語、動詞（サ行四段活用）　候　丁寧語、動詞（ハ行四段活用）
(4)させ　尊敬語、助動詞　給ひ　尊敬語、動詞（ハ行四段活用）

▼ポイント▲　尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別をさせて、敬語の種類が主語を考える手掛かりとなることを学習させる。

言語活動の解答例

1 **次のそれぞれの場面での、登場人物の心情はどのようなものか、考えてみよう。**

(1) **義仲と巴が別れるときの、義仲と巴のそれぞれの心情。**
(2) **主従二騎になったときの、義仲と兼平のそれぞれの心情。**
(3) **義仲と兼平の、それぞれの最期を遂げたときの心情。**

【答】
(1)義仲→武士の名誉を持ち出して、巴を逃がそうと思う。
　巴→離れがたい思いだが、強く説得されて別れを決意し、義仲に最後の戦を見せようと思う。
(2)義仲→兼平と一緒に戦って死にたい。
　兼平→主君には英雄らしく立派に自害してほしい。
(3)義仲→兼平の勧めどおり、武士の名誉を守って立派に自害しよう。
　兼平→どんなことをしてでも敵を防いで、主君に立派な最期を遂げさせたい。
　義仲→奮戦の甲斐なく主君が敵に討たれ、もう戦う意味がなく

なった。主君に代わって立派な最期を敵に見せてやろう。

▼ポイント▲

(1)義仲が、なぜ武士の名誉を持ち出したのか、その奥にある義仲の心情や、巴が別れ際に敵を倒して見せるところからは、女心より最後まで木曽殿の忠実な家臣でありたいという思いが感じられることを深く読み取らせたい。

(2)(3)義仲は乳母子である兼平と死を共にしたいと願うが、兼平は義仲に武士としての名誉ある最期を遂げてほしいと願っている。お互いを深く思う心情、相手の心情を汲み取って行動を決めていく過程と結末を、順を追って丁寧に読み取らせたい。

（小林　俊洋）